

# ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第37号 平成23年10月28日

先発の与四球も後まで響く

前節に続きまたもや守備から敗戦に・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
Q	4	2	1	0	0	0		7
G	0	0	1	2	0	0		3



10/28日(日)金井公園に出向き、QPOナインースとのオープン戦を行った。今日は当初から40代リレーと決めていただけに、先発の幹男がどこまで踏ん張れるか、また、後方支援の守備・打撃がどれだけ機能出来るかが勝利の分かれ目であると感じていた。今日は後攻、よって、幹男のマウンドに注目が集まる。その初級の入りはボールから。2ストライクまでもちかえしたが、結果四球で出塁を許す。そして、次打者の初球はレフトへの飛球、落下地点に追いついたが、残念ながら捕球出来ずに落球、この間に、一塁走者は、一挙三塁へ進塁。次打者は投ゴロに斬る。後続も三ゴロに打ち取ったが、ここでサードが失策、この間に2点を先制された。次打者を四球で出塁を許し、場面は一死一、二塁。またもや失点の予感がしたが、次打者を空三振に斬り、アウトカウントを一つ加えた。が、次打者には四球、そして盗塁を許し、更には、この回2個目のサード失策、更に、連続2四球を与え、この回、何とノーヒットで4点を失点してしまった。翌2回には、3連続長短打で2点を失点し、今日のゲーム展開を非常に苦しい内容に変えた。3回にも1点を与え、現時点7点のビハインド。しかし、その裏に、我がチームの攻撃に進展が。二死後、政司が四球を選択し出塁、そして打席に入った哲也より、盗塁のサイン(指示?)政司が盗塁を決め、二死二塁の得点シーンに、哲也が右中間に3ベースを放ち、1点を返した。後続も四球を選択し、出塁したが、三番が続かず、この回1点とまり。翌4回には、初回のお返しとばかり、3つの四球・失策・WPを絡め、2点を返したが、連続2三振を喫し、このチャンスは終わった。その後、ゲームは膠着状態となり、時間切れのゲームセットとなった。

今日の敗戦を振り返ると、何と言っても初回の守備に尽きる、と言っても過言ではない。野球はミスが起きるもの、だから、そのミスをチームでいかにカバー出来るかだが、残念ながら今日はそれが出来なかった。投手においては、安打されるのは、相手が上手いから仕方ない。しかし、四球はやはり投手に責任がある。だから四球を出さない事も、勝利への道。更には、出塁を許した走者のケアを怠れば、それは、次塁への安全進塁パスをあげたようなもの。この辺を次回の登板に是非、繋げて欲しい。それにしても2安打では、投手が頑張っても厳しいな――